

オマーン，ワジタイン地域のメタチャートの構造解析

Microstructural analysis of metacherts in the Wadi Tayin area, Sultanete of Oman.

増田 俊明[1], 小野寺 久美子[1], 青島 逸子[2], 奥平 敬元[3], 山浦 洋平[4], 横井 佐代子[5], 釘宮 康郎[6]

toshiaki masuda[1], Kumiko Onodera[1], Itsuko Aoshima[2], Takamoto Okudaira[3], Yohei Yamaura[4], Sayoko Yokoi[5], Yasuo Kugimiya[4]

[1] 静大・理・地球科学, [2] 静大院・理工・生地環, [3] 阪市大・院理・地球, [4] 静大・理・生地環, [5] 阪大・理・宇宙地球科学, [6] 静大・理・環境

[1] Inst. Geosci., Shizuoka Univ., [2] Geoscience, Shizuoka Univ., [3] Dept. Geosci., Osaka City Univ., [4] Inst. of Geosciences, Shizuoka Univ., [5] Earth and Space Sci., Osaka Univ.

ワジタイン地域のメタモルフィックソールは主としてメタチャートと角閃岩から構成されており，それ以外に少量の大理石とパイロキシナイトを含んでいる．

ワジタイン地域のメタモルフィックソールは主としてメタチャートと角閃岩から構成されており，それ以外に少量の大理石とパイロキシナイトを含んでいる．本講演ではメタチャートを詳細に調べた結果を報告する．

(1) メタチャートには面構造の発達が目立つ．一方，線構造は露頭・サンプルの観察だけでは判断できなかった．そこでフォンミーゼス分布を利用した統計的方法を用いて鉱物線構造の向きと強さ（集中度）を求めた．

(2) 面構造に垂直・線構造に平行な面で薄片観察を行い，マイカフィッシュを多数発見した．マイカフィッシュの非対称性から剪断センスを判断し，オフィオライトが南西方向に移動したことがわかった．

(3) 10 サンプルでC軸ファブリックを測定した．剪断方向が判断できないもの（3 サンプル），南西方向へのオフィオライトの移動を示唆するもの（5 サンプル），その逆を示唆するもの（1 サンプル）があった．

(4) 鉱物線構造の強さはメタモルフィックソールの中程のメタチャートユニットで高く，その上方と下方の角閃岩層中のメタチャートでは低い示した．